

学認LMSのご紹介： 大学横断型学習管理システム 「学認LMS」最新動向2025

国立情報学研究所 情報社会相関研究系 / オープンサイエンス基盤研究センター 准教授
古川 雅子

内容の概要

1. 学認LMSのご紹介
2. 2025年度のアップデート

学認LMSのご紹介

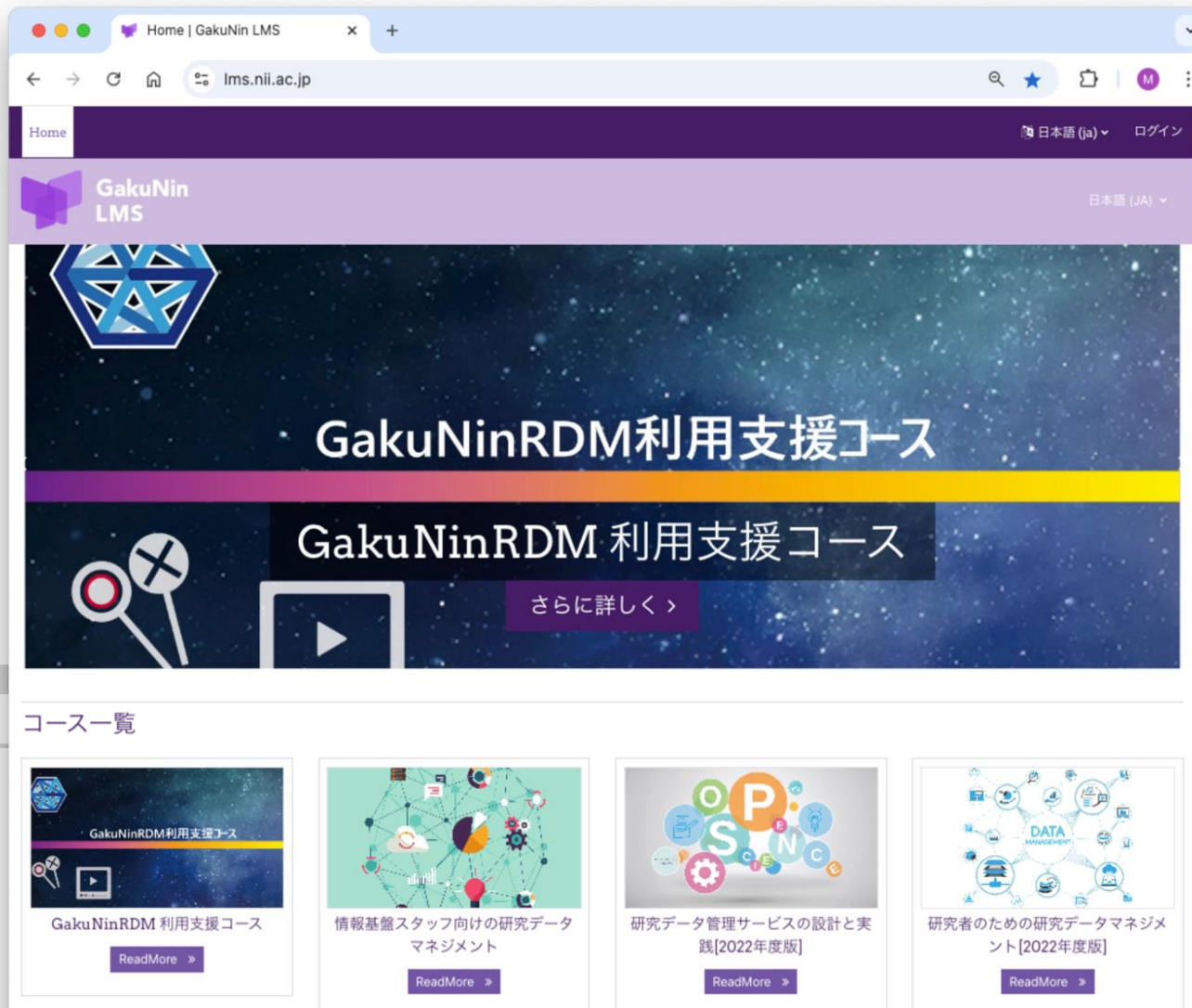
教育コンテンツ共有プラットフォーム：学認LMS

利用機関数：

136機関

(2025.6時点)

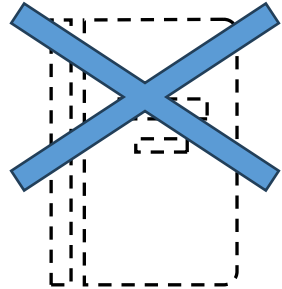
- 研究データ管理/情報セキュリティの教材
- 教材開発/再利用/分析で利用できる機能



【課題 1 : 共通教材】



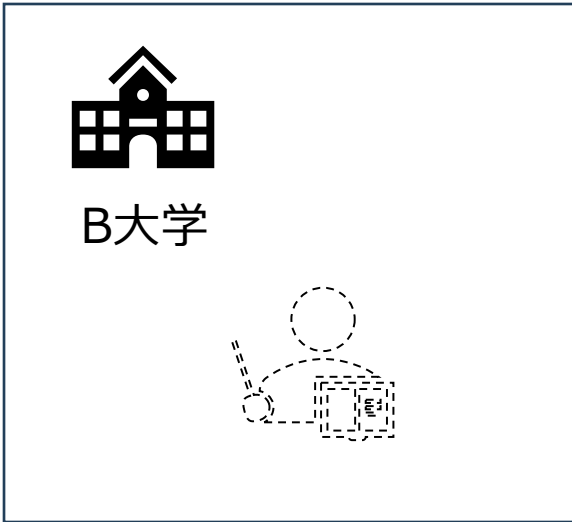
共通教材の不在



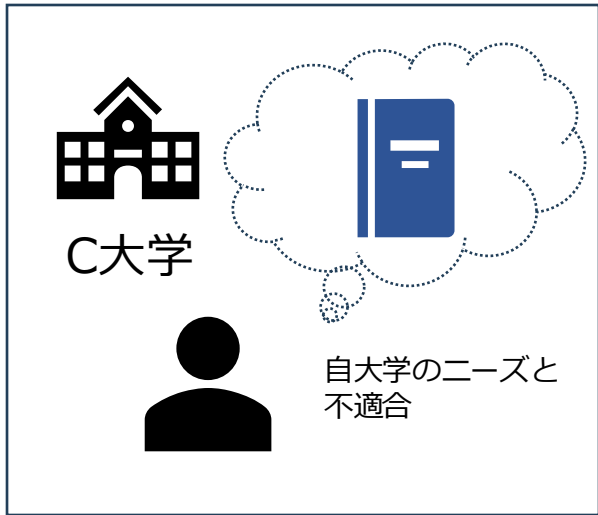
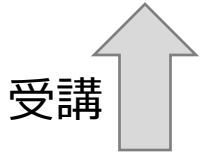
大学独自で
教材を作成・管理



専門教員不在により
教育実施できず



外部の商用LMSが
提供する教材





専門委員会



教材の提供・更新



共通教材



専門協会



教材の提供・更新

C大学用コース



受講

受講

受講



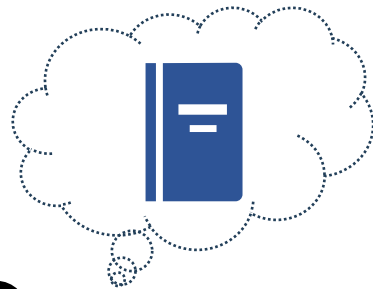
A大学



B大学



C大学



自大学のニーズに
合わせた教材に
カスタマイズ

情報セキュリティ講座とコミュニティ



国立情報学研究所
学術研究プラットフォーム運営・連携本部
高等教育機関における情報セキュリティポリシー推進委員会
コンテンツ部会

教材の特徴：

1. 4ヶ国語コース（日・英・中・韓）
2. SCORM教材+小テスト
3. 条件をクリアすると、バッジを発行

「倫倫姫の情報セキュリティ教室」
等を学認LMS上で提供中
<https://www.nii.ac.jp/service/rinrinhime/>

ネットワーク

研究データ基盤

認証基盤

クラウド

情報セキュリティ

大学間連携に基づく情報セキュリティ体制の基盤構築 (NII-SOCS)

倫倫姫の情報セキュリティ教室

[終了]ヒカリ&つばさの3択教室シリーズ

学術情報流通

連携

人材育成

倫倫姫の情報セキュリティ教室

倫倫姫の情報セキュリティ教室は大学生活でよくある身近な会話から情報セキュリティを学ぶオンラインコースです。

高等教育機関における情報セキュリティポリシー推進委員会では教材として「倫倫姫の情報セキュリティ教室」を公開しています。
(「倫倫姫と学ぼう！情報倫理」は提供を停止いたしました)
情報セキュリティ分野の変化・進歩に合わせて内容の更新を行い、日本語・英語・中国語・韓国語に対応しています。国立情報学研究所が運用する「学認LMS」で提供しており、コースには教材だけでなく理解を確認するテストも提供しています。

倫倫姫の情報セキュリティ教室 紹介動画

2. 事例

ヒカリ：「アドレス問題をクリアしたとしても、その後、どんな本文にするかがまたラスボスだし。全く分からなくて…… どうしたらいいの？」

研究データ管理講座とコミュニティ

J P C O A R

オープンアクセスリポジトリ推進協会

オープンアクセスリポジトリ推進協議会
研究データ管理作業部会

NII 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
国立情報学研究所
National Institute of Informatics

国立情報学研究所
オープンサイエンス基盤研究センター

- 研究データ管理サービスの設計と実践[2022年度版]
- 研究者のための研究データマネジメント[2022年度版]
- 情報基盤スタッフ向けの研究データマネジメント
- GakuNinRDM利用支援コース etc..

教材の特徴：

1. 教材作成は、JPCOAR、AXIESと協働
2. 合成音声によるマイクロコンテンツ教材
3. コース修了条件をクリアすると、修了バッジを発行
4. さらに、国立情報学研究所教育研修事業研究データ管理セルフラーニング教材の修了証書を取得可能



GakuNinRDM 利用支援
コース



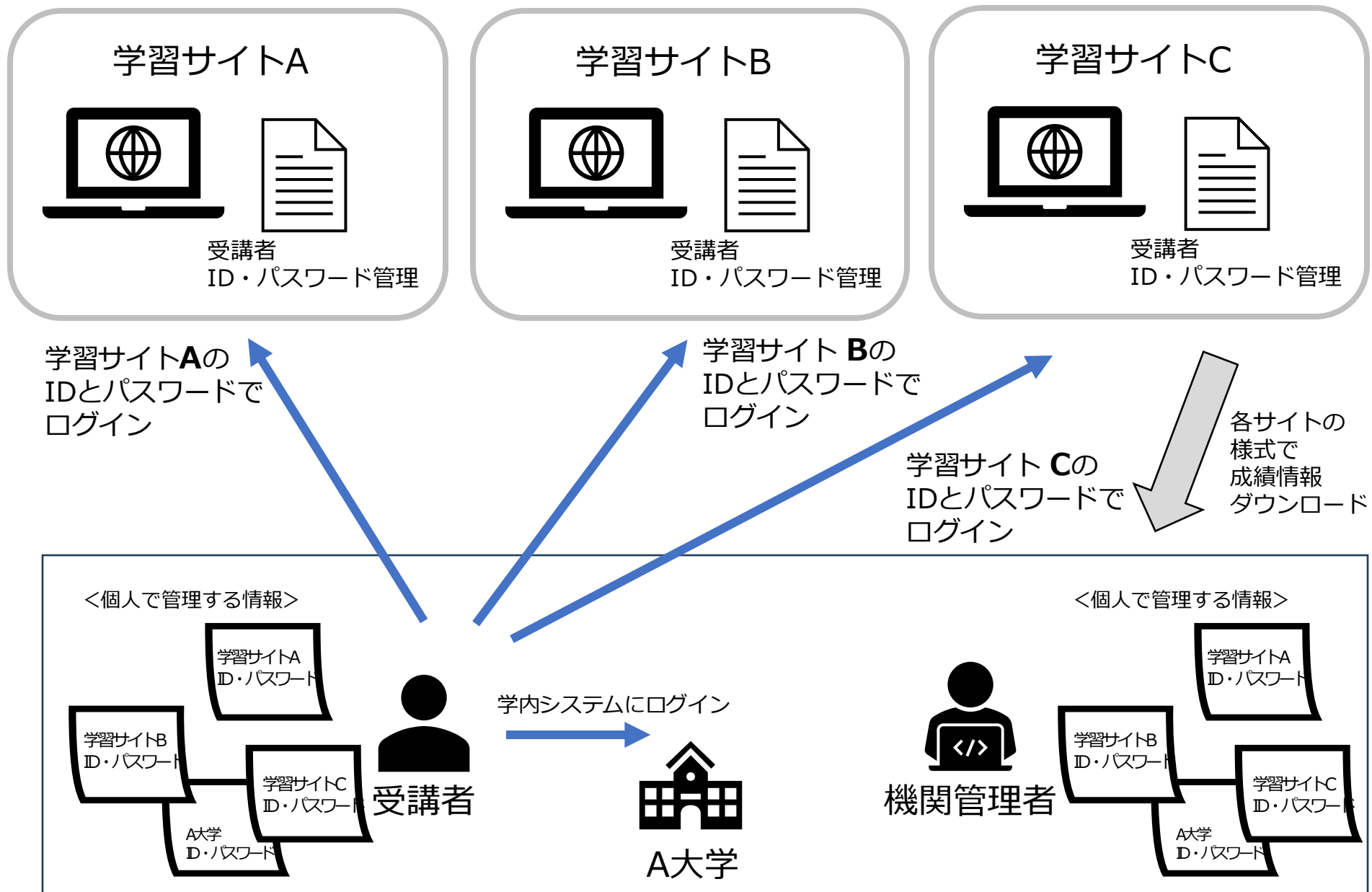
情報基盤スタッフ向けの研
究データマネジメント



研究データ管理サービスの
設計と実践[2022年度版]

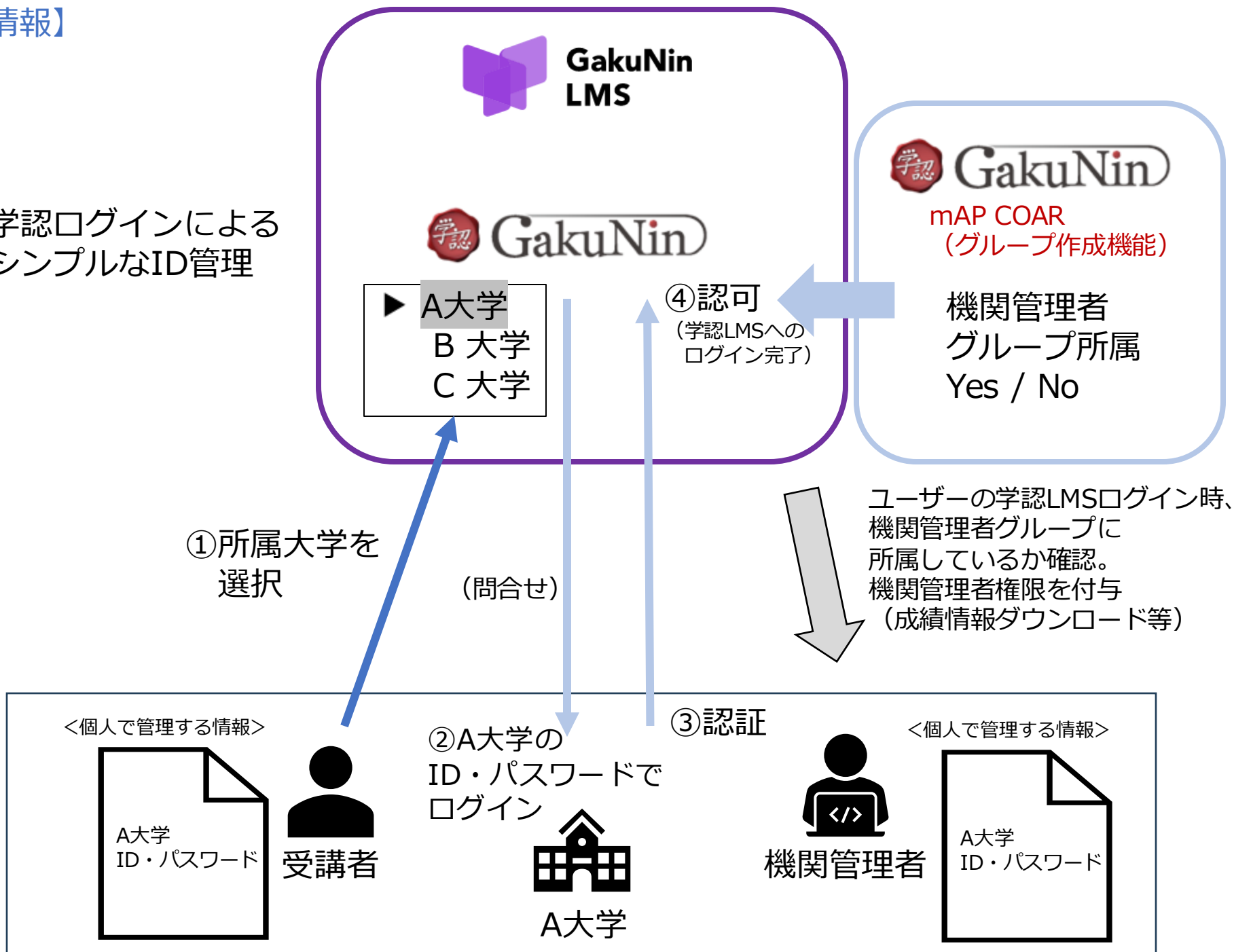


研究者のための研究デー
タマネジメント[2022年度版]





学認ログインによる
シンプルなID管理



IdP設定

<lms.nii.ac.jpが受け取る属性情報>

- **organizationName (必須)**
- **eduPersonPrincipalName (必須)**

- **displayName (選択)**

学生の氏名を表示する場合は送出してください。送出しない場合は初期名「GakuNin」となります。

- **mail (選択)**

LMS からメールを受け取らせる場合は送出してください。

送出しない場合は、学生のプロフィール情報のメール欄には

{ (ハッシュ値)@example.ac.jp } 形式の仮アドレスが設定されます。

この仮アドレスには LMSからメール送付は行われません。

<cg.gakunin.jpが受け取る属性情報>

- **eduPersonPrincipalName (必須)**

学認クラウドゲートウェイサービス連携のための情報です。

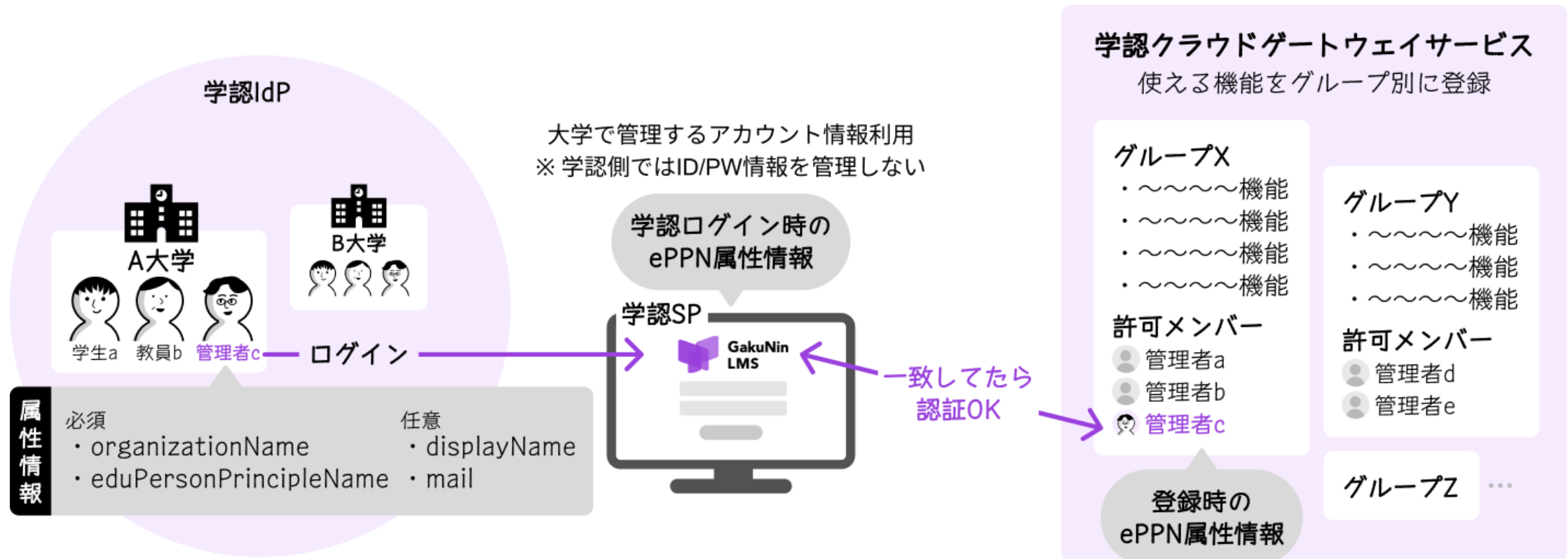
各種機関管理者機能をご利用いただく場合に必要となります。

設定情報の詳細は、学認LMSユーザサポートサイトをご覧ください。

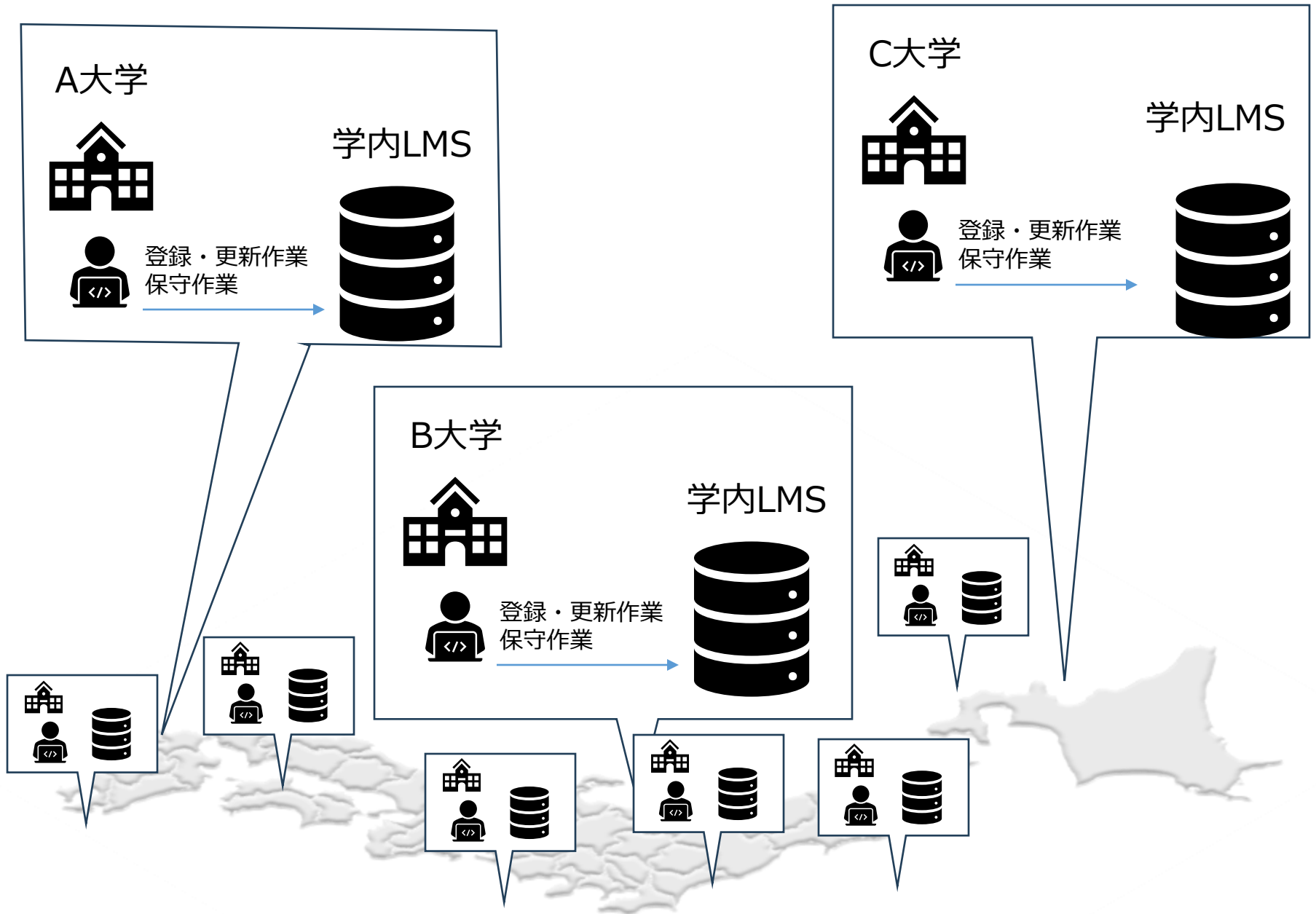
<https://meatwiki.nii.ac.jp/confluence/display/GakuNinLMSUsers>

人材育成基盤（学認LMS）のしくみ

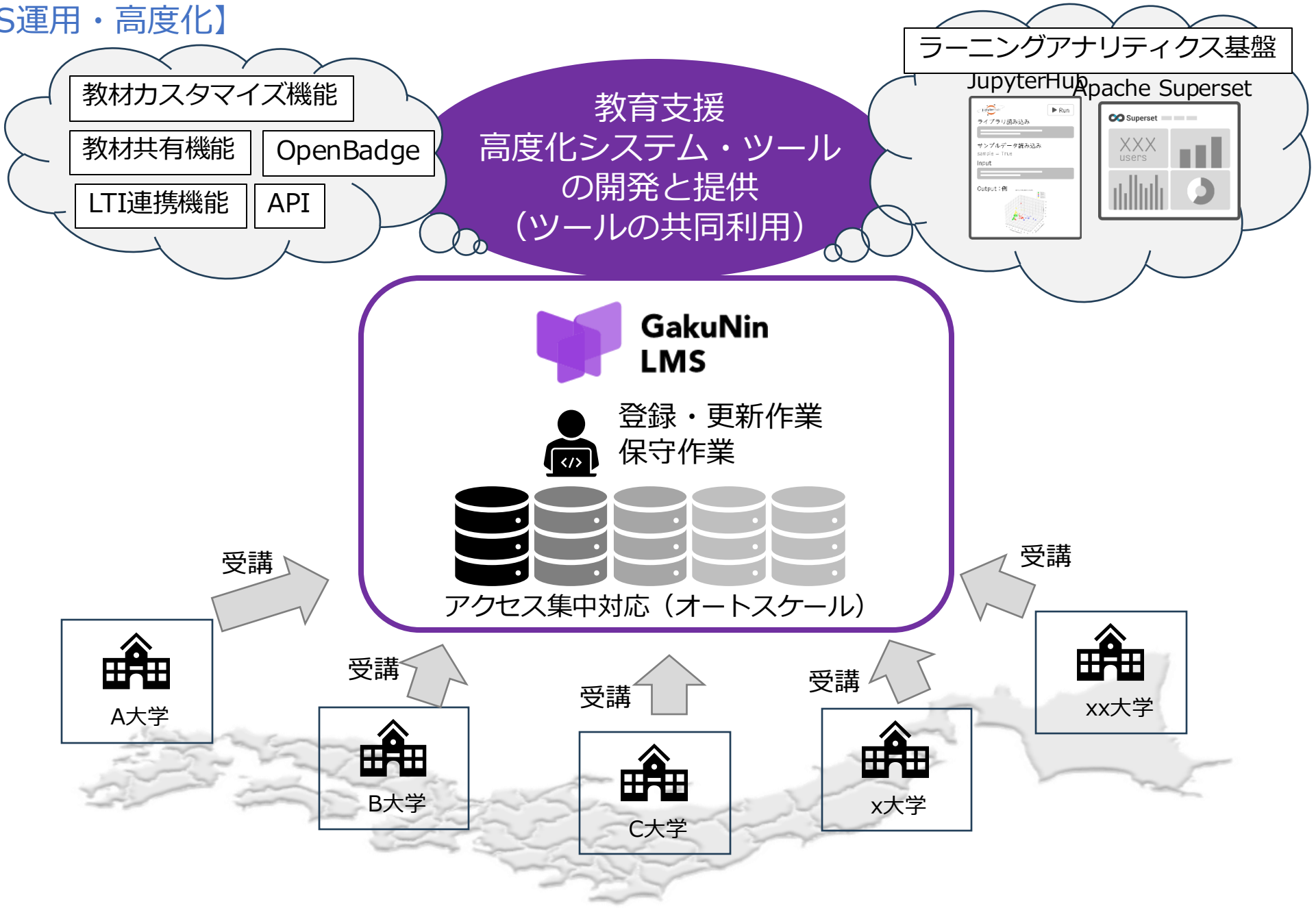
- ・ 利用機関ごとにユーザ管理できる
- ・ 所属機関のユーザの学習状況を管理できる
- ・ 学認クラウドゲートウェイサービスと連携し、機関管理者機能の各種権限を付与



【課題 3 : LMS運用・高度化】



【取組 3 : LMS運用・高度化】



オプション機能（機関管理者機能）

提供サービス

- 情報セキュリティ講座の受講履歴取得機能
- 研究データ管理講座の受講履歴取得機能

テスト運用（先行利用受付）

1. 受講履歴取得API機能
2. 自機関限定コース作成機能
3. 機関限定コースの共有機能
4. 自機関LMSとのLTI連携機能
5. ラーニングアナリティクス機能
6. マイクロコンテンツ教材作成機能
7. 合成音声ビデオ教材作成システム

情報セキュリティ 講座の受講履歴取得機能 研究データ管理講座の受講履歴取得機能

- 機関管理者と同じ所属のユーザのみを対象として許可
 - 参加者一覧の閲覧
 - 小テストの成績閲覧・ダウンロード



受講者としてコースを
学習することも可能

1. 受講履歴取得API機能

テスト運用中

- 情報セキュリティ講座の受講履歴取得機能 or 研究データ管理講座の受講履歴取得機能の利用者向けサービス
- 受講履歴をWebAPIにより取得できる
 1. 指定コースに対するコースモジュールIDの取得
 2. 指定したコースモジュールIDに関する受講履歴の取得

2. 自機関限定コース作成機能

3. 機関限定コースの共有機能

テスト運用中

- NII提供コース

- 情報セキュリティ講座
- 研究データ管理講座

- **機関限定コース**

- 自機関限定コース

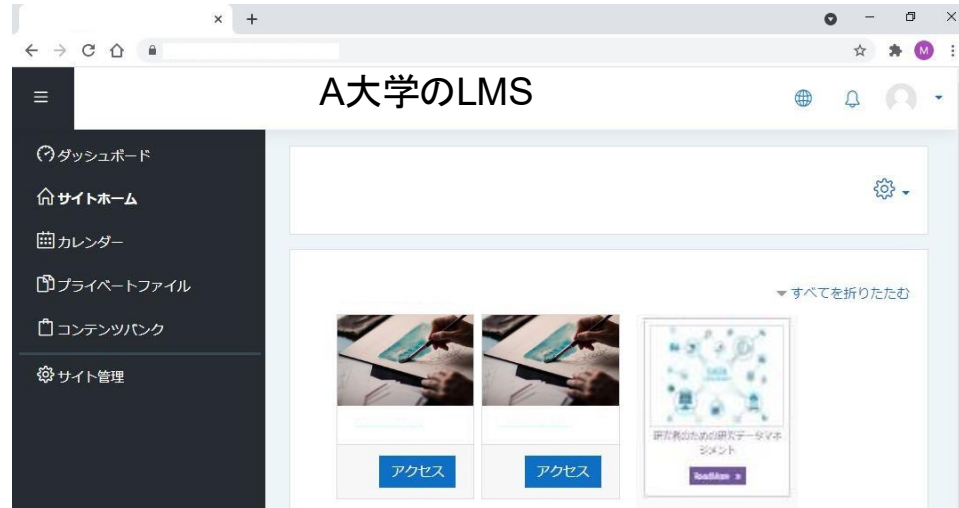
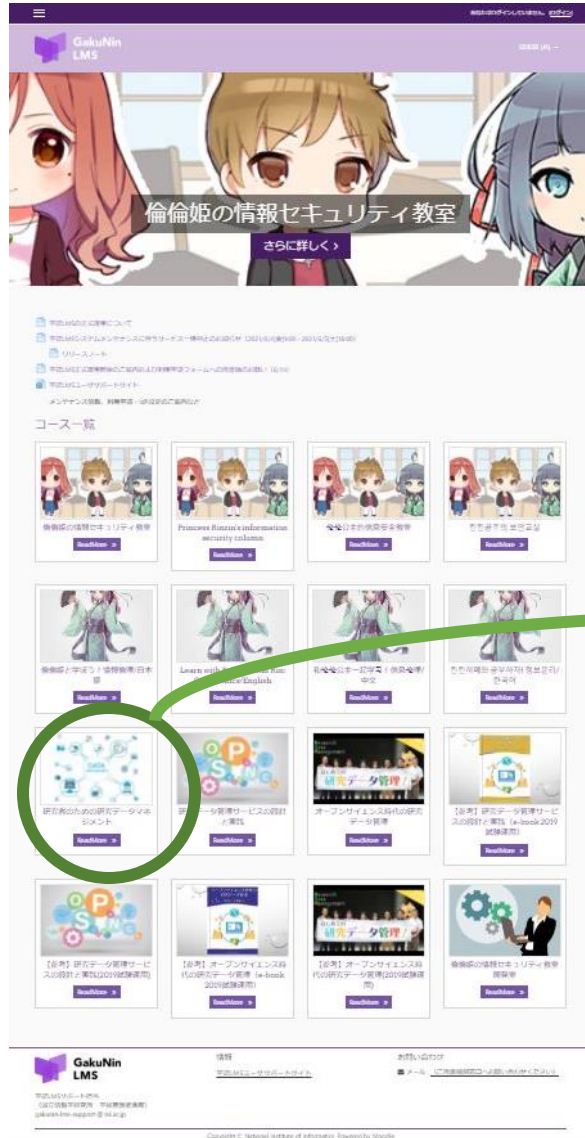
(コースは該当する機関のユーザのみに表示される)

※自機関限定コースを指定した機関に共有可能

(受講者情報は機関ごとにアクセス制御を行う)

4. 自機関LMSとのLTI連携

テスト運用中



LTI連携

学認LMSをLTIプロバイダとして、学認LMSの許可されたコースまたはコース内のアクティビティを自機関LMSで利用できます。設定情報（秘密鍵やURL等）を提供先ごとの個別情報として渡します。

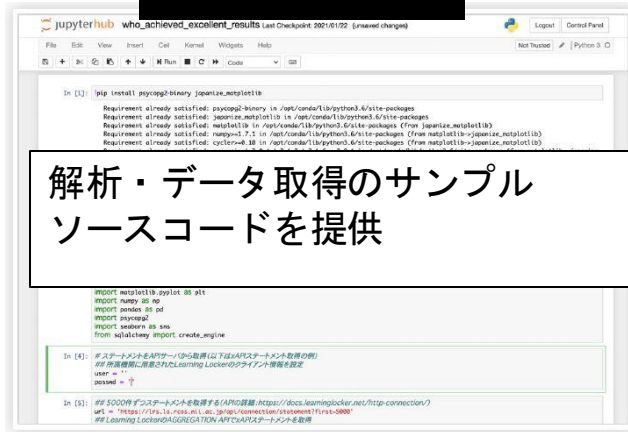
研究データ管理講座：

- ・ 情報基盤スタッフ向けの研究データマネジメント
- ・ 研究データ管理サービスの設計と実践[2022年度版]
- ・ 研究者のための研究データマネジメント[2022年度版]
- ・ オープンサイエンス時代の研究データ管理

5. ラーニングアナリティクス機能

テスト運用中

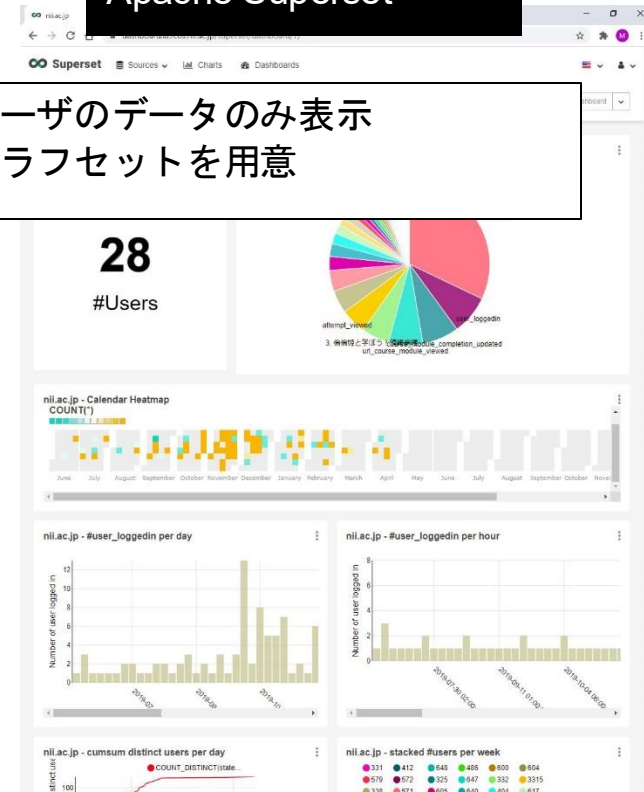
Jupyter Hub



解析・データ取得のサンプル
ソースコードを提供

Apache Superset

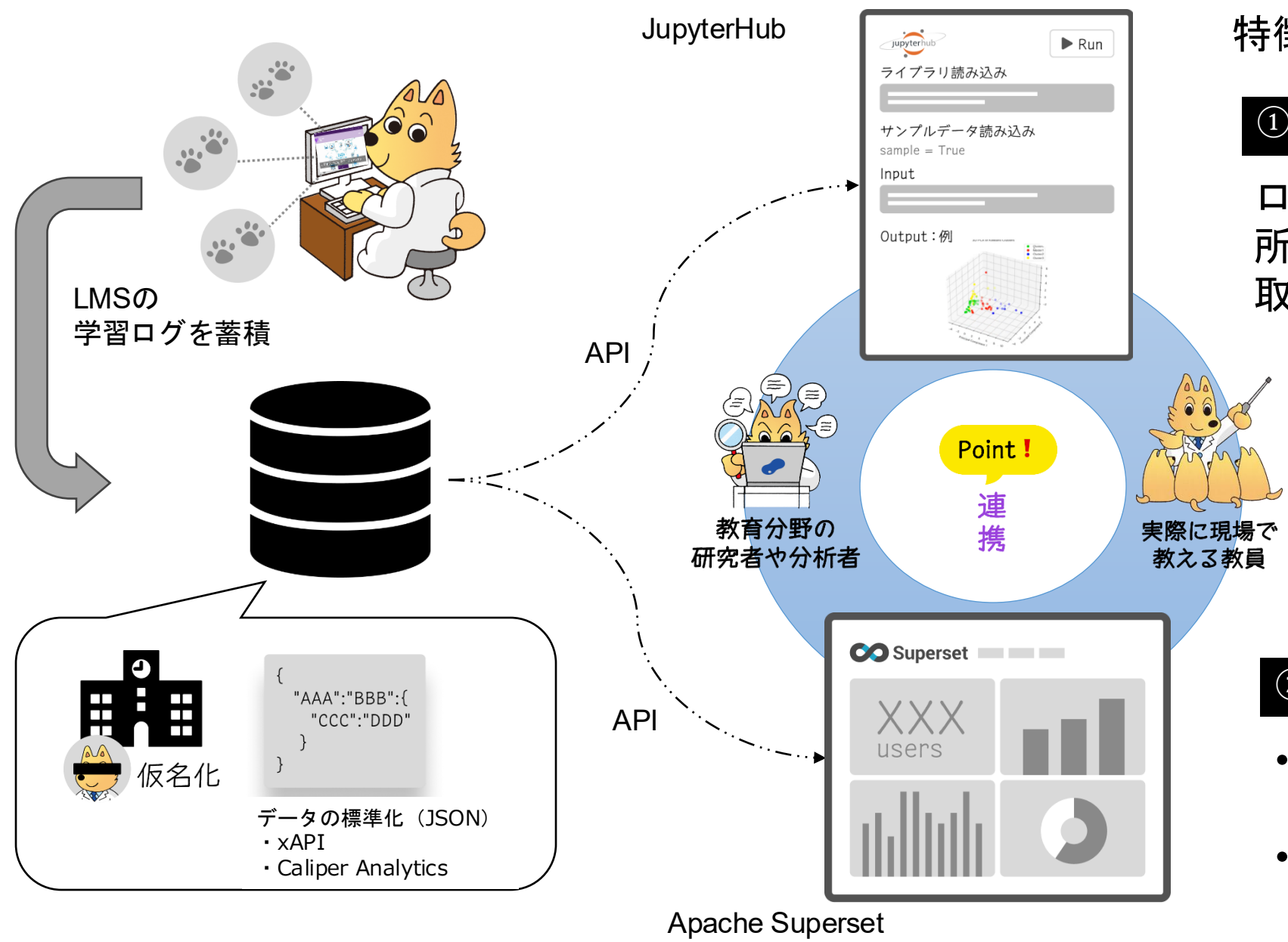
同じ所属機関ユーザのデータのみ表示
デフォルトのグラフセットを用意



Jupyter Hubの解析結果を
Apache Supersetで描画可能

Apache Supersetで編集可能&
新たなグラフをダッシュボードに追加可能

学認LMSにおけるラーニングアナリティクス機能



特徴 : **Close & Share**

① データへのアクセス制御

ログインユーザの所属に応じて所属機関の学習ログデータのみ取得可能

③ 分析と支援の連携

JupyterHubの実行結果をSupersetで可視化

② 機関同士の連携

- 自機関で作成したチャートやダッシュボードを共有
- 自機関のデータに置き換えて結果を表示

学認LMSにおける分析のハードルを下げるための各種サポート体制



サンプルソースコード提供



サポートサイト公開

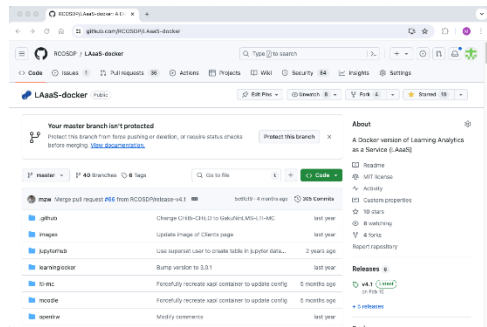
<https://support.la.lms.nii.ac.jp/>



ハンズオンセミナー実施

AXIES2023

NII-OF2024



再現できる環境の提供

<https://github.com/RCOSDP/LAAaaS-docker>

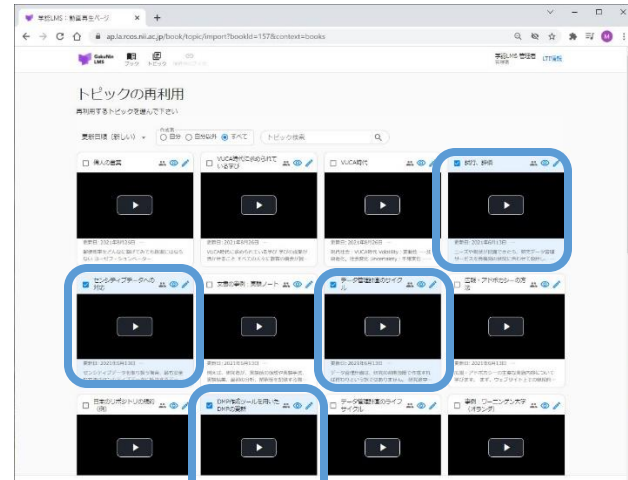
データを取得・分析するノートブック例：

- Caliperステートメントを取得する例
- xAPIステートメントを取得する例
- ノートブックの実行結果をSupersetに登録する例
- ステートメントのアクター名(ハッシュ値)に対応するePPNを取得する例
- 小テスト結果から成績優秀者を求める例
- 動画の視聴回数の推移を調べる例
- 小テストの結果と動画の視聴履歴から退学者を予測する例
- コースの利用状況を可視化する例

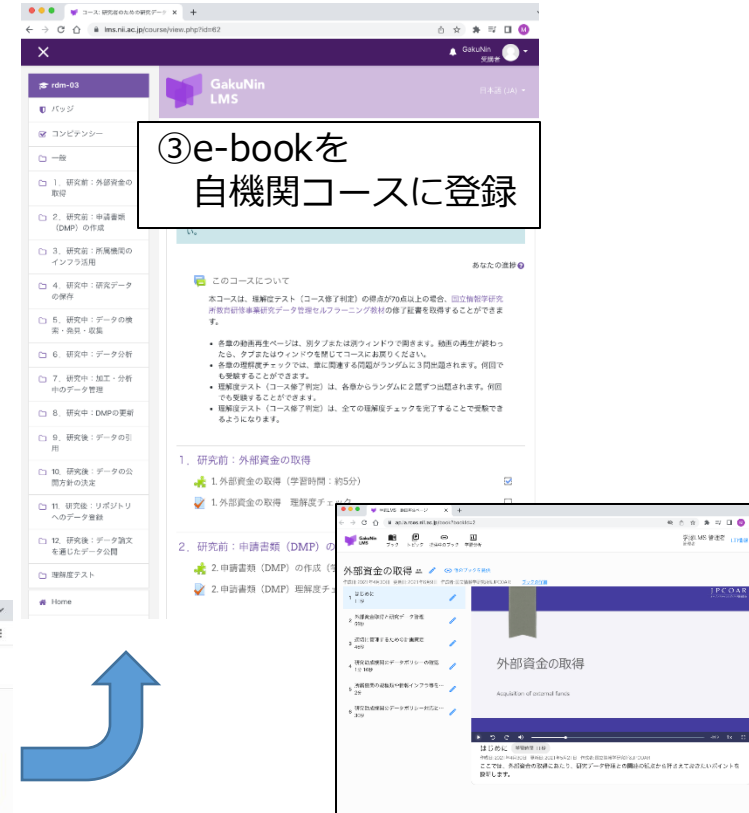
6. マイクロコンテンツ教材作成機能

テスト運用中

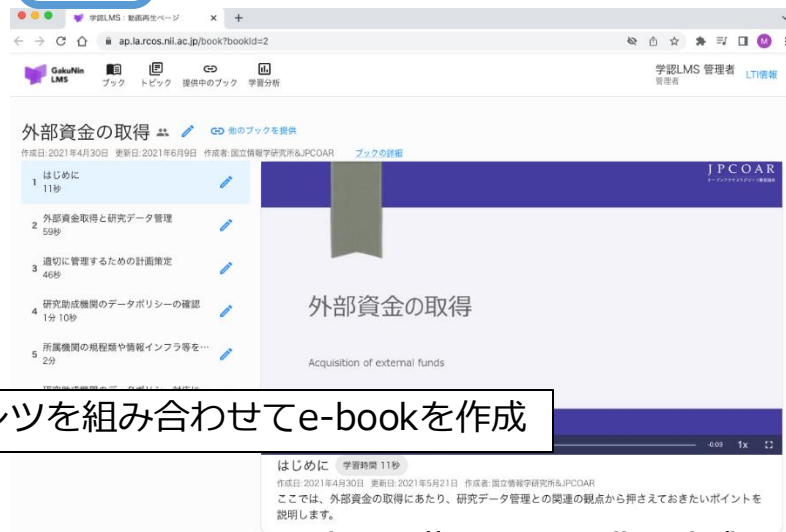
①再利用可能なコンテンツ（トピック）を検索



③e-bookを 自機関コースに登録

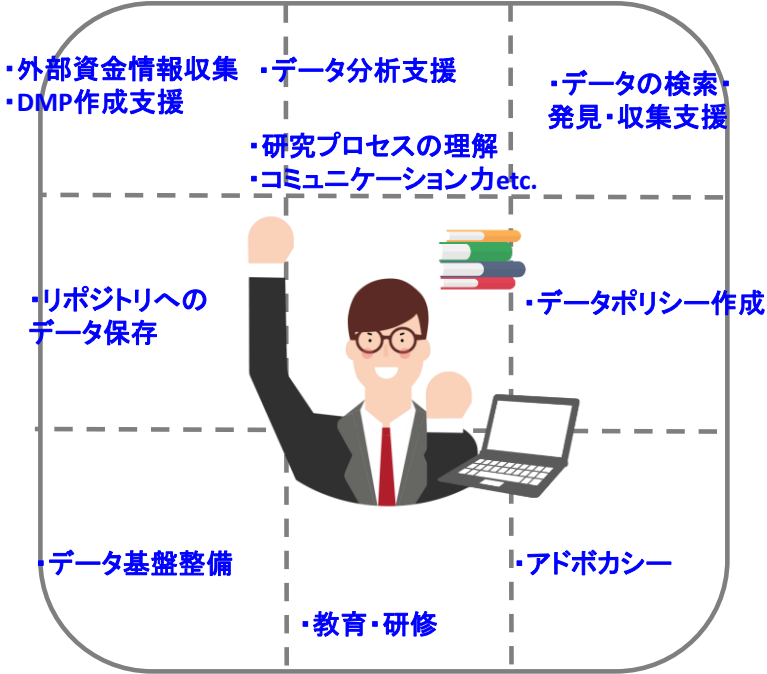


②コンテンツを組み合わせてe-bookを作成



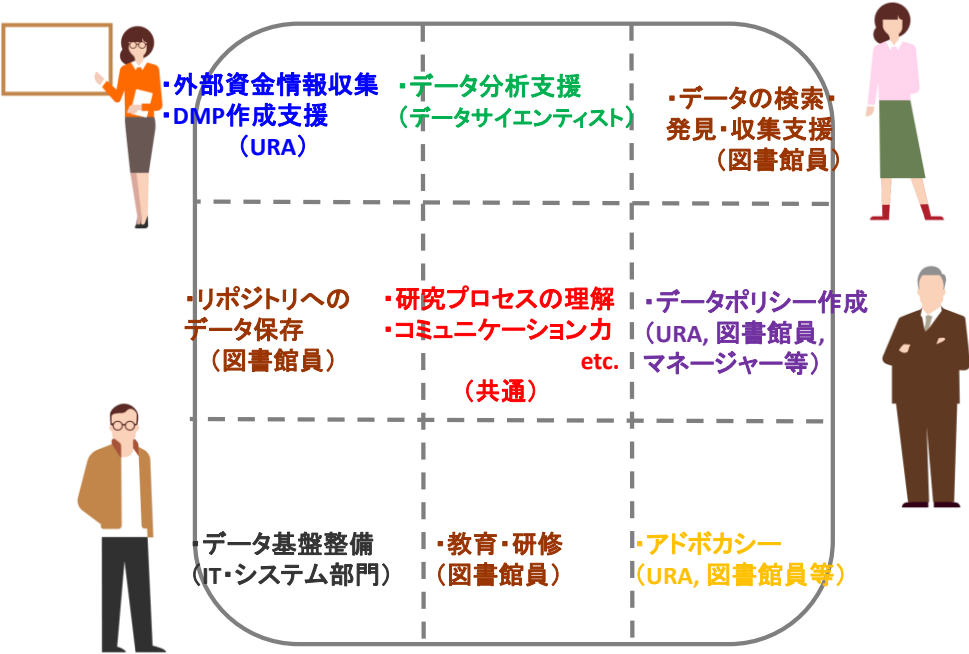
https://contents.nii.ac.jp/lms_support/option/micro_contents

学術機関における研究データ管理支援の 組織モデルについて



エキスパート型

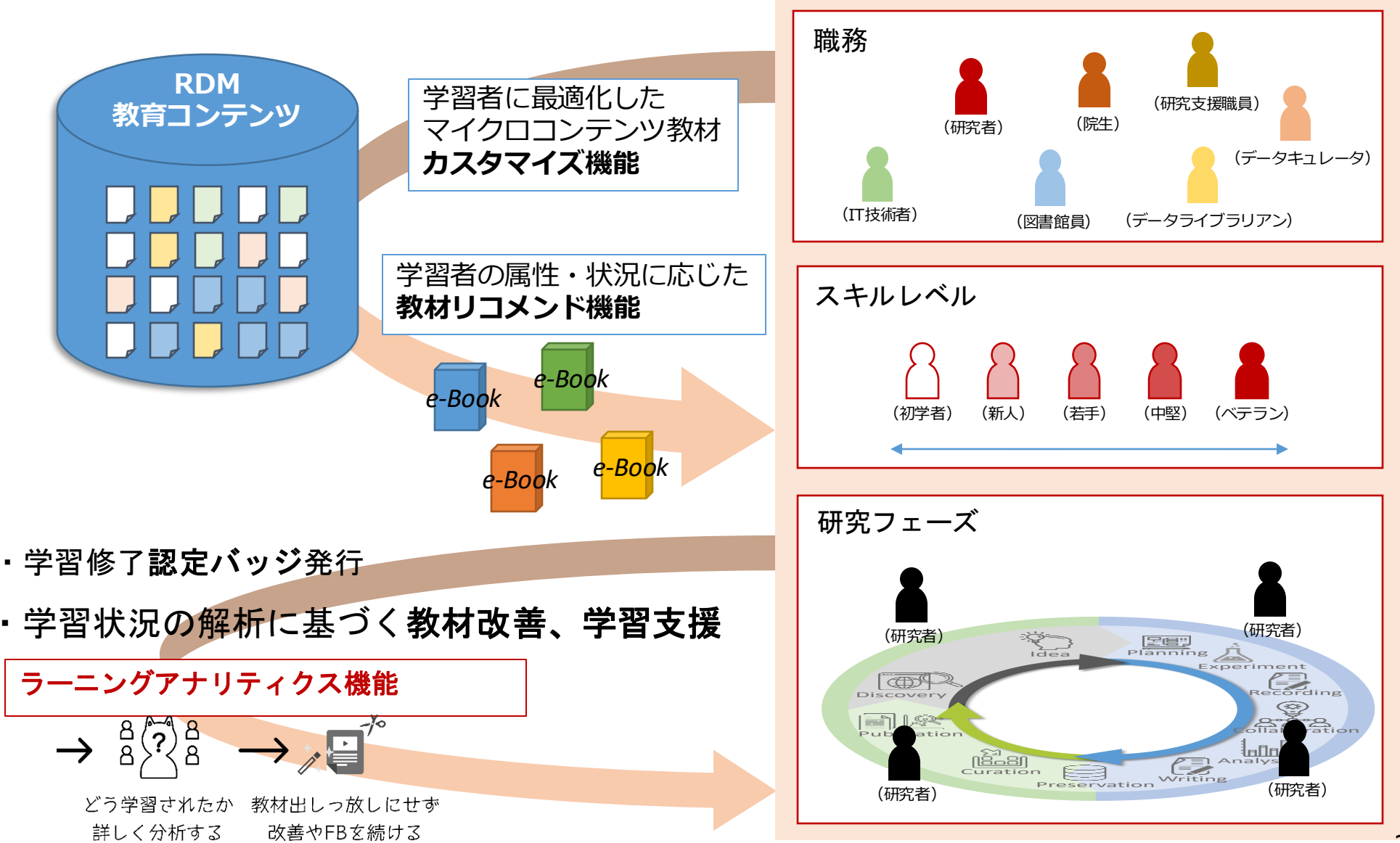
一人のデータライブラリアンが全て担う
多くの自己学習やトレーニングが必要



機能型

学術機関で研究データ管理体制を整備
従来の職種が各々関わりのある職域について
研究データ管理支援を行うことが可能
組織全体として機能を果たす
関連部署等の連携も重要

研究データ管理の人材育成基盤の実現



動画再生ページ（教材表示画面）

ブックに含まれる
各トピックのタイ
トルメニュー
上から順番に自動
再生

1. 外部資金の取得

作成日: 2021年4月22日 更新日: 2022年9月28日 作成者: 国立情報学研究所&JPCOAR

ブックの詳細

1 はじめに 10秒

2 外部資金取得と研究データ管理 57秒

3 適切に管理するための計画策定 44秒

4 研究助成機関のデータポリシーの... 1分 6秒

5 所属機関の規程類や情報インフラ... 1分 55秒

6 研究助成機関のデータポリシー対... 28秒

JPCOAR

外部資金取得と研究データ管理

- 研究公正、研究データの積極的な利活用促進の観点にとどまらず、資金提供元に対する説明責任（公的な資金の場合は納税者への説明責任）の観点からも、研究データの適切な管理が重要
- 「公的な資金によって実施された研究で生み出された成果やそのもととなるデータ等は公的資産としての性格も有することから、それらを適切に管理・保存し、必要に応じて開示することは、研究者及び研究機関に課せられた責務」（日本学術会議「科学研究における健全性の向上について」<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-k150306.pdf>）

外部資金取得と研究データ管理 学習時間 57秒

作成日: 2021年4月22日 更新日: 2022年9月28日 作成者: 国立情報学研究所&JPCOAR

研究データの適切な管理が重視されるようになってきた背景として、研究公正や、オープンサイエンスの推進による研究成果の幅広い利活用への期待が挙げられます。外部資金を取得して行われる研究の場合、資金提供元に対する説明責任の観点からも研究データの適切な管理が重要です。特に、公的な資金によって実施された研究で生み出された成果や、そのもととなるデータ等は公的資産としての性格も有しており、納税者への説明責任の観点からも、研究データの適切な管理が求められます。こういった背景を受けて、研究助成機関によっては、研究データに係るポリシーを定めて研究データの適切な管理を促している場合があります。

【参考資料へのリンク】

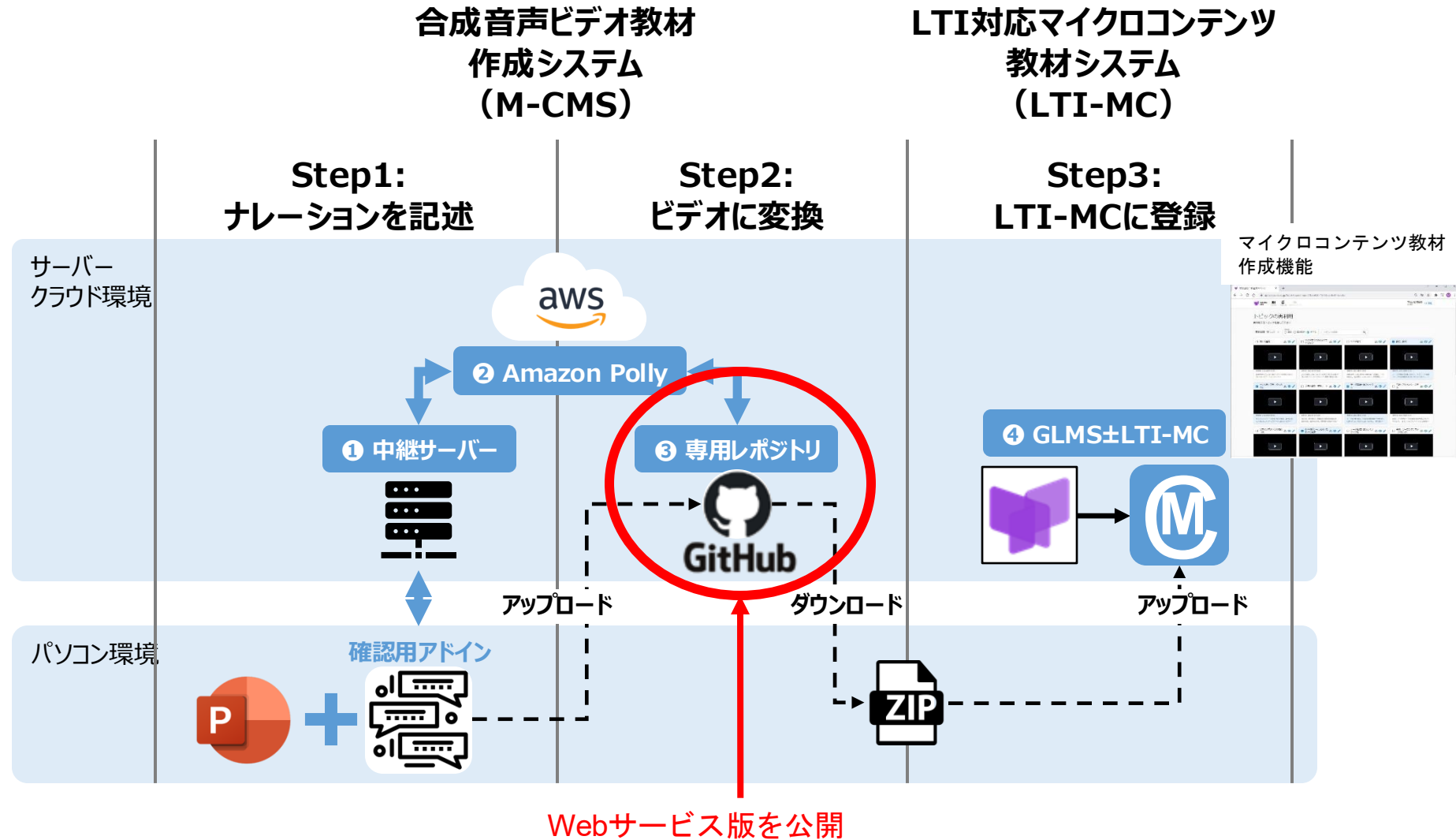
- 日本学術会議「科学研究における健全性の向上について」

←再生する動画

←字幕やURL等のテキスト情報

7.合成音声ビデオ教材作成システム

テスト運用中



PtM: 合成音声付き動画教材作成システム

所属機関の選択

GakuNinLMS-M-CMSを利用するため、所属機関で認証する必要があります。所属機関を選択してください。
※このページを表示して時間が経過している場合は、再読み込みしてから所属機関を選択してください。正しいページに戻れない場合があります。

所属機関:
国立情報学研究所

選択

☐ ブラウザ起動中は自動ログイン

リセット

音声合成ビデオ作成システム

STEP0: 作成の流れ

STEP1: PPTの選択

STEP2: ビデオの作成

STEP0: 音声合成ビデオ作成の流れ

※ FirefoxとSafariでは使用できませんのでご注意ください。
Google Chrome・Microsoft Edgeのみ使用できます。

STEP1

パワーポイントファイルを含むディレクトリを選択し、使用するパワーポイントを選択します。

STEP2

音声合成ビデオを作成します。

STEP1: PPTの選択へ

TTS-MC-HELP

はじめに

合成音声教材作成システム (以下 TTS-MC) では、マイクロソフト社製パワーポイントにオレーション機能を搭載すると、マイクロコンテンツ管理サーバ (以下 LTI-MC) に対応した合成音声付きビデオ教材を作成することができます。

TTS-MCを使うためには、以下のものを準備して下さい

1. LTI-MCに接続するLMSのアカウント

2. GitHubのアカウント

3. パワーポイントデスクトップ版 (Office2016以上) あるいはWeb版

TTS-MCを利用したビデオ教材作成の手順は次の通りとなります

Step1: パワーポイントにオレーションを記述する

Step2: パワーポイントをGitHubにアップロードし登録データを入力する

Step3: LTI-MCに接続する

TTS-MCで作成するビデオ教材

TTS-MCは、スライド毎に分割されたLTI-MC対応の合成音声ビデオ教材を作成します。

Next

マニュアルのPDF出力

学認でログイン

操作マニュアル

<https://ptm.nii.ac.jp>

27

2025年度のアップデート

利用マニュアルの公開

1. 受講者向け利用マニュアル

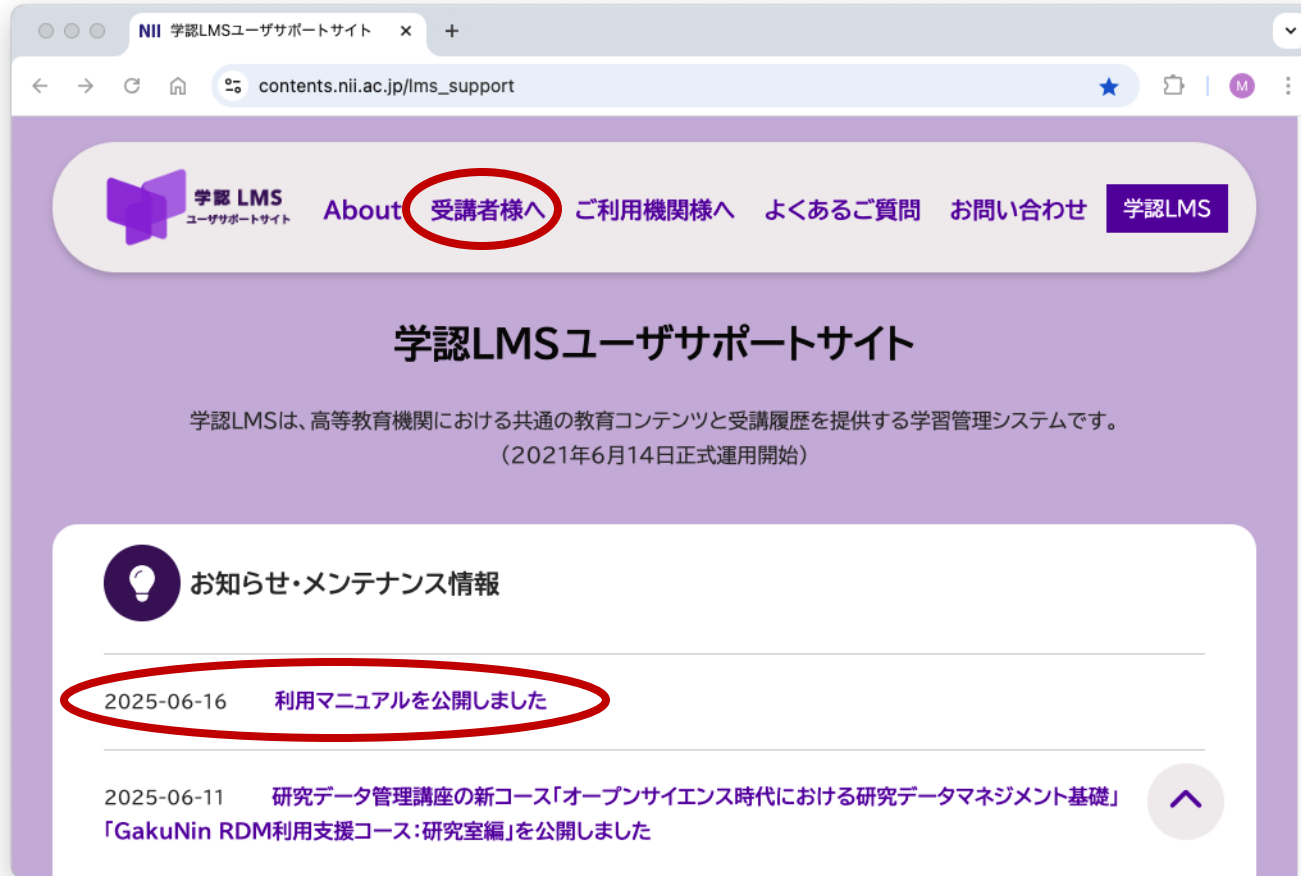
NII共通コース（情報セキュリティ講座、研究データ管理講座）の受講方法

2. オプション機能「受講履歴取得機能」利用マニュアル

（機関管理者向け）オプション機能の「情報セキュリティ講座の受講履歴取得機能」および「研究データ管理講座の受講履歴取得機能」の利用方法

※オプション機能のお申込みについては、学認LMSユーザサポートサイトの利用申請方法の「4. オプション機能申込（任意）」をご参照ください。

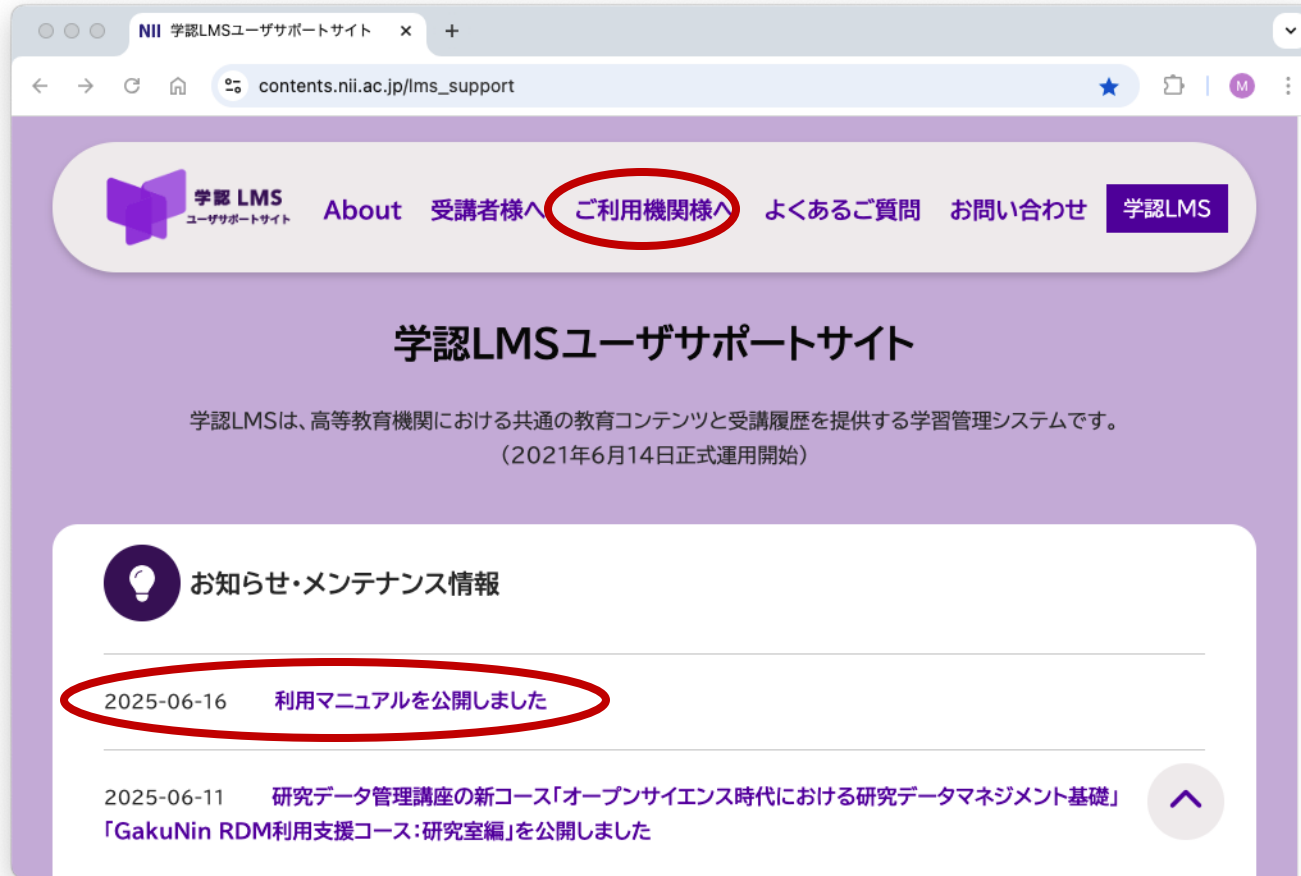
1. 受講者向け利用マニュアル



目次

- 1 はじめに.....
- 2 ログイン/ログアウト.....
 - 2.1 初回ログイン.....
 - 2.2 2回目以降ログイン.....
 - 2.3 ログアウト.....
- 3 Home 画面.....
 - 3.1 Home 画面.....
 - 3.2 ダッシュボード.....
 - 3.3 マイコース.....
 - 3.4 言語切替.....
- 4 プロファイル.....
 - 4.1 ユーザ詳細.....
 - 4.2 バッジ.....
 - 4.3 コース詳細.....
- 5 受講準備(マイコースの登録・解除).....
 - 5.1 マイコースへの登録.....
 - 5.2 マイコースの解除.....
- 6 共通コース「情報セキュリティ講座」のコースを受講する.....
 - 6.1 各セクションを受講する.....
 - 6.2 総合テストを受験する.....
 - 6.3 評定を確認する.....
 - 6.4 バッジを確認する.....
- 7 共通コース「研究データ管理講座」のコースを受講する.....
 - 7.1 各セクションを受講する.....
 - 7.2 理解度テストを受験する.....
 - 7.3 バッジを確認する.....
- 8 研究データ管理セルフラーニング教材の修了証発行.....
- 9 ユーザサポートサイトについて.....
- 10 困ったときは.....

2. オプション機能 「受講履歴取得機能」利用マニュアル



目次

- 1 はじめに
 - 1.1 各講座の「受講履歴取得機能」について
 - 1.2 申込方法.....
 - 1.3 mAP グループへの入会
- 2 ログイン・ログアウト.....
 - 2.1 初回ログイン
 - 2.2 2回目以降ログイン
 - 2.3 ログアウト.....
- 3 利用準備（マイコースの登録、ロールの切り替え）.....
 - 3.1 マイコースへの登録
 - 3.2 マイコースの解除
 - 3.3 コース管理者にロールを切り替える
- 4 各コースの受講履歴の確認方法
 - 4.1 [情・研]登録済みユーザ
 - 4.2 [情]参加者一覧
 - 4.3 [情]セクション*（トピック）の受講履歴
 - 4.4 [情・研]総合テスト/理解度テストの受講履歴.....
 - 4.5 [情・研]評定者レポート.....
 - 4.6 [情]ログ
 - 4.7 [情・研]「活動レポート」と「活動完了」
- 5 評定（ユーザメニューから評定者レポートへの遷移）.....
- 6 ユーザサポートサイトについて
 - 6.1 受講履歴取得 API（テスト運用中オプション機能）のご紹介.....
 - 6.2 ラーニングアナリティクス機能（テスト運用中オプション機能）のご紹介
- 7 困ったときは

研究データ管理講座の新コース公開

2025.6.10開講

- ・ オープンサイエンス時代における研究データマネジメント基礎
- ・ GakuNin RDM利用支援コース：研究室編



オープンサイエンス時代における研究データマネジメント基礎



GakuNin RDM利用支援コース：研究室編

オープンサイエンス時代における 研究データマネジメント基礎



研究データには、どのように生成され、保存され最終的に再利用されていくのかといったライフサイクルがあります。

「オープンサイエンス時代における研究データマネジメント基礎」では、研究データのライフサイクルに沿った形で、サービス設計や研究前の支援、研究中の支援、研究後の支援、そして日常的な支援について学びます。

本コースの教材は、「AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」における大阪大学の成果である研究データ管理教材「オープンサイエンス時代における研究データマネジメントの基礎について学ぶ」をもとに、大阪大学・九州大学・オープンアクセスリポジトリ推進協会が連携して改修したものです。

全ての章の理解度テスト合計点が70点以上の場合、修了バッジを発行。

＜章構成＞

1. 研究データマネジメントを知る
2. 研究データポリシーと関係規程等
3. 研究データ管理計画（DMP）
4. 研究データの取得・収集および保存・共有
5. 研究データを公開する
6. 研究データを利活用する
7. 研究データ基盤・連携の紹介



GakuNin RDM利用支援コース：研究室編

- GakuNin RDMを研究室で利用する方で、ご自身の研究活動にあわせた基本的な操作をできるようにになりたい方におすすめのコース
- 研究室の年間活動を想定した以下の4つの項目（A～D）で構成。各項目には動画とクイズを用意。
- クイズの正解率80%以上で「合格」となり、項目別のデジタルバッジが付与されます。各項目の動画を視聴し、かつ、各項目のクイズに「合格」された方には、コース完了を証明するデジタルバッジを発行。

＜構成＞

- A. 研究室におけるGakuNin RDMの活用（基本）
- B. 研究開始時におけるGakuNin RDMの活用
- C. 研究遂行中におけるGakuNin RDMの活用
- D. 研究終了と引継ぎにおけるGakuNin RDMの活用

ログインプラグインの変更（準備中）

【現行】

Moodleが提供するShibbolethプラグイン

【今後】

学認の埋め込みDSを用いる専用プラグイン

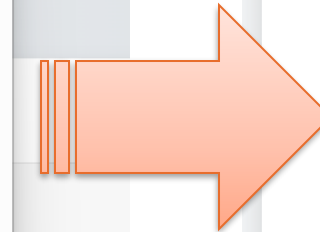
GakuNi LMS

所属機関

- 福岡教育大学 / University of Teacher Education Fukuoka
- 東京農工大学 / Tokyo University of Agriculture and Technology
- 大阪大学 / The University of Osaka
- 東北学院大学 / Tohoku Gakuin University
- 国立情報学研究所 / National Institute of Informatics**
- 東北工業大学 / Tohoku Institute of Technology
- 国際基督教大学 / International Christian University
- 大阪経済大学 / Osaka University of Economics
- 京都産業大学 / Kyoto Sangyo University
- 弘前大学 / Hirosaki University
- 大阪教育大学 / Osaka Kyoiku University
- 滋賀医科大学 / Shiga University of Medical Science
- 東京電機大学 / Tokyo Denki University

国立情報学研究所 / National Institute of I ▼

選択



所属機関の学内認証システムでログイン

所属機関を選択してください

GakuNi

選択

リセット

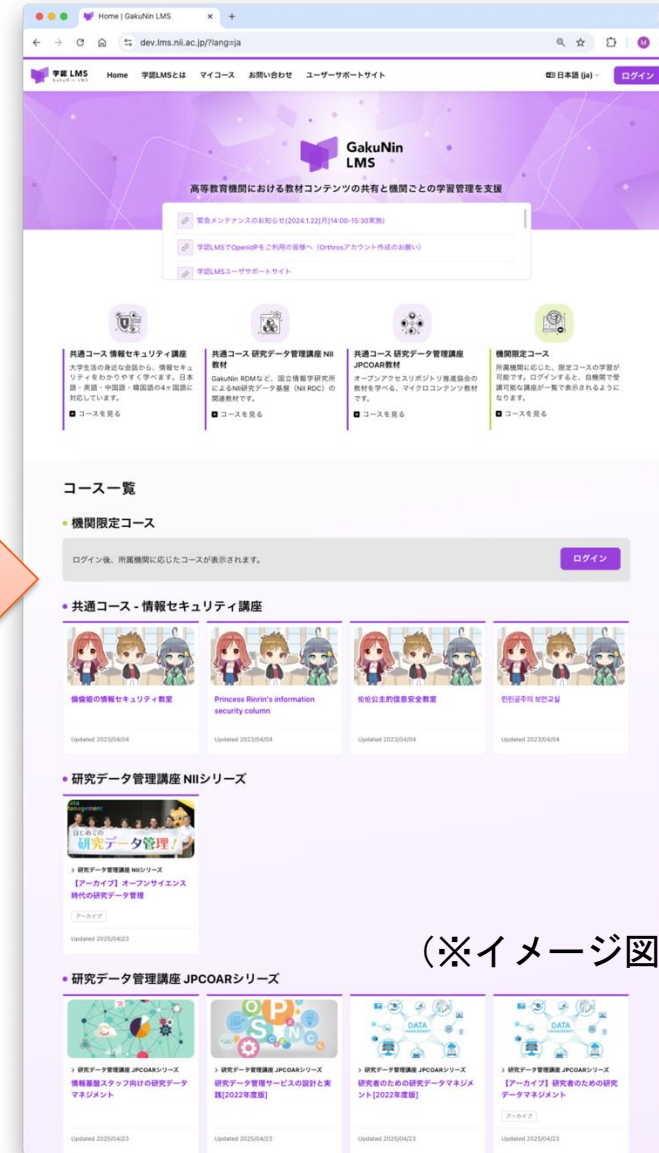
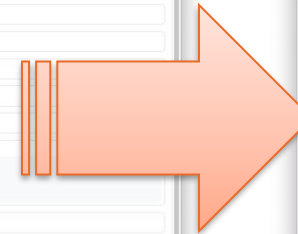
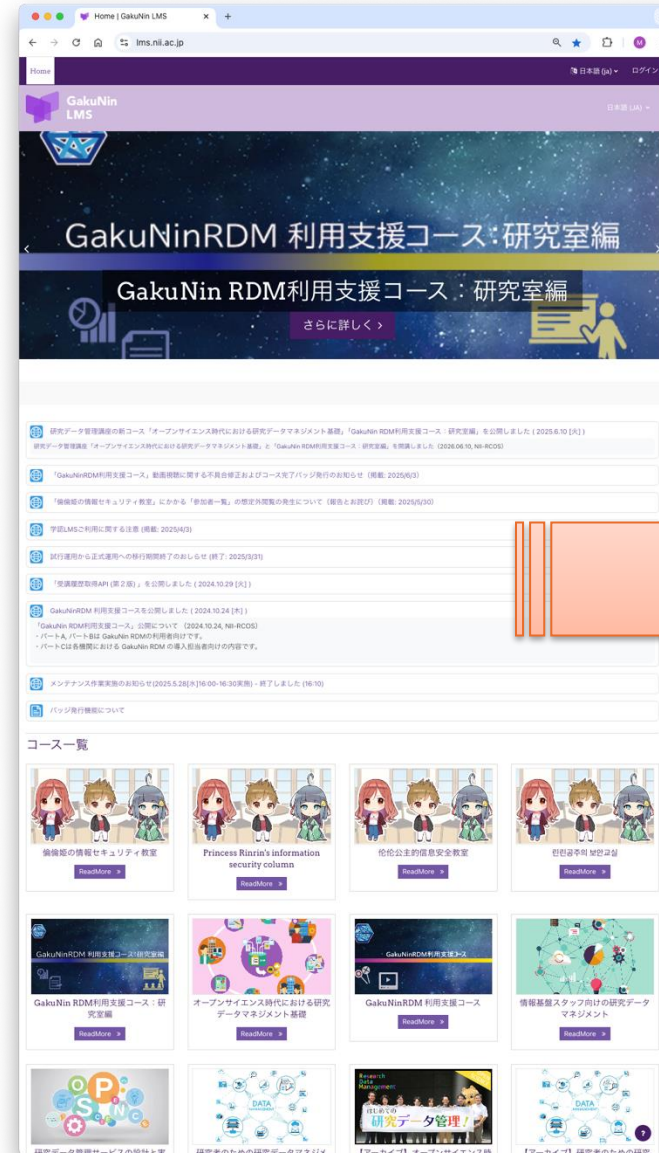
北海道大学
北海道情報大学
公立大学法人札幌市立大学
東北大学
公立大学法人 国際教養大学
盛岡大学
電気通信大学 Shibboleth IdP

いくつかのコースにはゲストアクセスできます。

ゲストとしてログインする

システムアップデート（準備中）

- ・ トップページデザイン変更
- ・ 講座別のコース配置
- ・ アップデートのチェック体制を強化し、設定ミスの防止やレビュー体制を見直し



(※イメージ図)